

本資料のうち、枠囲みの内容は
商業機密の観点や防護上の観
点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-13-0001_改1
提出年月日	2020年10月26日

工事計画に係る説明資料

浸水防護施設のうち外郭浸水防護設備

(要目表)

2020年10月

東北電力株式会社

8.5 浸水防護施設

8.5.1 外郭浸水防護設備

				変更前	変更後	
名		称			防潮堤（鋼管式鉛直壁）	
種		類		—	防潮堤（鋼管式鉛直壁）*1	
主要 寸 法	天 端 高 さ		m		O. P. +29.0*2, *3	
	鋼 製 遮 水 壁	ス キ ン	mm	—	25.0 以上 (25.0*2)	
		プ レ ー ト	厚 さ			
	鋼 管	厚 さ	mm	25~40 以上 (25~40*2)	—	2.2~2.5*2
		直 径	m			
	背 面 補 強 工	幅	m	11.06*2	—	12.65*2
	置 換 コ ン ク リ ー ト	幅	m			
	R C 遮 水 壁	幅	m	3.4*2	—	0.5*2
	漂 流 物 防 護 工	幅	m			
厚 さ		mm	9~22 以上 (9~22*2)			
材 料	鋼製遮水壁		—		SM570 SM490YB SM400A	
	鋼管		—		SM570 SKK490 コンクリート	
	背面補強工		—		コンクリート	
	置換コンクリート		—		コンクリート	
	RC遮水壁		—		鉄筋コンクリート	
	漂流物防護工		—		SM400 SM490 SM490Y SM570	

注記 *1：構造境界部に止水ジョイントを設置する。

*2：公称値を示す。

*3：平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約 1m の地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

				変更前	変更後	
名		称		—	防潮堤（盛土堤防）	
種		類			—	防潮堤（盛土堤防）
主要 寸法	天端高さ		m		0. P. +29.0 ^{*1, *2}	
	天端幅		m		10.0 ^{*1}	
	置換 コンクリート	幅	m		26.25 ^{*1}	
材 料	堤体		—		セメント改良土	
	置換コンクリート		—		コンクリート	

注記 *1：公称値を示す。

*2：平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

				変 更 前	変 更 後		
名		称		—	防潮壁 (第2号機海水ポンプ室)		
種		類			—	防潮壁*1	
天		端 高 さ			m	O.P. +19.0*2, *3	
鋼製遮水壁 (鋼板)		厚 さ			mm	16.0以上 (16.0*2) 20.0以上 (20.0*2)	
主 要 寸 法	鋼製遮水壁 (鋼桁) ①		幅		m	2.4*2	
			たて		m	5.0*2	
			横		m	41.85*2	
	鋼製遮水壁 (鋼桁) ②		幅		m	1.0*2	
			たて		m	5.0*2	
			横		m	16.7*2	
	鋼製扉		幅		m	0.6*2	
			たて		m	5.15*2	
			横		m	5.9*2	
材 料		鋼製遮水壁 (鋼板)			—	SM570 鉄筋コンクリート	
		鋼製遮水壁 (鋼桁) ①			—	SM570 鉄筋コンクリート	
		鋼製遮水壁 (鋼桁) ②			—	SM490Y 鉄筋コンクリート	
		鋼製扉		—	SM570 鉄筋コンクリート		

注記 *1: 構造境界部に止水ジョイントを設置する。

*2: 公称値を示す。

*3: 平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

				変 更 前	変 更 後	
名		称		—	防潮壁 (第2号機放水立坑)	
種		類			—	防潮壁* ¹
天		端 高 さ			m	O.P. +19.0* ² , * ³
主 要 寸 法	鋼製遮水壁 (鋼板) ①		厚 さ		mm	20.0 以上 (20.0* ²)
	鋼製遮水壁 (鋼板) ②		厚 さ		mm	20.0 以上 (20.0* ²)
	鋼製遮水壁 (鋼板) ③		厚 さ		mm	16.0 以上 (16.0* ²)
	鋼製遮水壁 (鋼桁)		幅		m	1.0* ²
			た て		m	5.0* ²
			横		m	15.7* ²
	鋼製扉		幅		m	0.6* ²
			た て		m	5.15* ²
			横		m	5.9* ²
	材 料	鋼製遮水壁 (鋼板) ①			—	
鋼製遮水壁 (鋼板) ②		—			SM570 鉄筋コンクリート	
鋼製遮水壁 (鋼板) ③		—			SM570 鉄筋コンクリート	
鋼製遮水壁 (鋼桁)		—		SM490Y 鉄筋コンクリート		
鋼製扉		—		SM570 鉄筋コンクリート		

注記 *1: 構造境界部に止水ジョイントを設置する。

*2: 公称値を示す。

*3: 平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約 1 m の地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

				変 更 前	変 更 後		
名		称		—	防潮壁 (第3号機海水ポンプ室)		
種		類			—	防潮壁*1	
主 要 寸 法	天 端 高 さ		m		—	O.P. +20.0*2, *3	
	鋼製遮水壁 (鋼板)		厚 さ		mm	—	16.0以上 (16.0*2)
	鋼製遮水壁 (鋼桁)		幅		m	—	2.4*2
			た て		m	—	6.0*2
			横		m	—	47.1*2
	鋼製扉		幅		m	—	0.6*2
			た て		m	—	6.15*2
			横		m	—	5.9*2
	材 料	鋼製遮水壁 (鋼板)		—	—	SM570 鉄筋コンクリート	
鋼製遮水壁 (鋼桁)		—	—	SM570 鉄筋コンクリート			
鋼製扉		—	—	SM570 鉄筋コンクリート			

注記 *1：構造境界部に止水ジョイントを設置する。

*2：公称値を示す。

*3：平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

				変 更 前	変 更 後		
名		称		—	防潮壁 (第3号機放水立坑)		
種		類			—	防潮壁*1	
主 要 寸 法	天 端 高 さ		m		—	0. P. +19.0*2, *3	
	鋼製遮水壁 (鋼板)	厚 さ	mm		—	16.0以上(16.0*2)	
		鋼製遮水壁 (鋼桁)①	幅		m	—	1.0*2
			た て		m	—	5.0*2
	横		m		—	16.3*2	
	鋼製遮水壁 (鋼桁)②	幅	m		—	1.0*2	
		た て	m		—	5.0*2	
		横	m		—	16.3*2	
	鋼製扉	幅	m		—	0.6*2	
		た て	m		—	5.15*2	
		横	m		—	5.9*2	
	材 料	鋼製遮水壁(鋼板)			—	—	SM570 鉄筋コンクリート
鋼製遮水壁 (鋼桁)①		—	—	SM490Y 鉄筋コンクリート			
鋼製遮水壁 (鋼桁)②		—	—	SM490Y 鉄筋コンクリート			
鋼製扉		—	—	SM570 鉄筋コンクリート			

注記 *1：構造境界部に止水ジョイントを設置する。

*2：公称値を示す。

*3：平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	防潮壁 (第3号機海水熱交換器建屋)
種 類		—		防潮壁
主 要 寸 法	天 端 高 さ	m		0. P. 20. 0 ^{*1, *2}
	鋼製遮水壁 (鋼板)	厚 さ mm		上段：9.0以上(9.0 ^{*1}) 中段：12.0以上(12.0 ^{*1}) 下段：16.0以上(16.0 ^{*1})
材 料	鋼製遮水壁(鋼板)			—

注記 *1：公称値を示す。

*2：平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い、牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし、地盤沈下量を考慮した高さを示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	取放水路流路縮小工 (第1号機取水路) (No.1), (No.2)
種 類		—		流路縮小工
主 要 寸 法	外 径	m		
	幅	m		3.5*
	貫 通 部 径	m		
材 料		—	コンクリート	

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後	
名		称	—	取放水路流路縮小工 (第1号機放水路)	
種		類		流路縮小工	
主 要 寸 法	外 径			m	
	幅			m	5.0*
	貫 通 部 径			m	
材		料	—	コンクリート	

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	貯留堰* ¹ (No. 1), (No. 2), (No. 3), (No. 4), (No. 5), (No. 6)
種 類		—		鉄筋コンクリート堰
容 量		m ³		2971 以上 (4300* ²) * ³
主 要 寸 法	天 端 高 さ	m		0. P. -6. 3* ² , * ⁴
	天 端 幅	m		2. 5* ²
	た て	m		1. 2* ²
	横	m		
材 料		—		鉄筋コンクリート
個 数		個	6	

注記 *1：非常用取水設備であり，浸水防護施設の外郭浸水防護設備として兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：引き波時に非常用海水ポンプの継続運転に必要な水量であり，貯留堰，取水口，取水路及び海水ポンプ室で確保する水量の合計値を示す。

*4：平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い，牡鹿半島全体で約 1 m の地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし，地盤沈下量を考慮した施設高さを記載する。

枠囲みの内容は防護上の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	屋外排水路逆流防止設備 (防潮堤南側) (No. 1), (No. 2), (No. 3)
種 類		—		逆流防止設備 (フラップゲート)
主 要 寸 法	た て	m		1.1*
	横	m		1.1*
	スキンプレート 厚 さ	mm		16.0 以上 (16.0*)
材 料		—		SUS304

注記 * : 公称値を示す。

				変更前	変更後	
名		称		—	屋外排水路逆流防止設備 (防潮堤北側)	
種		類			—	逆流防止設備 (フラップゲート)
主要寸法	扉体①	た	て		m	1.2*
		横			m	1.7*
		スキンプレート厚さ			mm	25.0以上(25.0*)
	扉体②	た	て		m	1.2*
		横			m	1.7*
		スキンプレート厚さ			mm	25.0以上(25.0*)
	扉体③	た	て		m	1.2*
		横			m	1.7*
		スキンプレート厚さ			mm	25.0以上(25.0*)
	扉体④	た	て		m	1.2*
		横			m	1.7*
		スキンプレート厚さ		mm	25.0以上(25.0*)	
漂流物防護工		幅		m	0.5	
材		料		—	SUS304	

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	補機冷却海水系放水路 逆流防止設備 (No. 1), (No. 2)
種 類		—		逆流防止設備 (フラップゲート)
主 要 寸 法	た て	m		2.04*
	横	m		1.6*
	スキンプレート 厚 さ	mm		12.0 以上 (12.0*)
材 料		—	SUS316L	

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	水密扉(第3号機海水熱交換器建屋海水ポンプ設置エリア)(No.1)
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2055*
	横	mm		900*
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後	
名		称	—	水密扉(第3号機海水熱交換器建屋海水ポンプ設置エリア)(No.2)	
種	類	—		片開き扉	
主要寸法	た	て		mm	2055*
	横			mm	900*
材料	扉	板		—	SS400
	芯	材		—	SS400

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後	
名		称	—	浸水防止蓋（原子炉機器冷却 海水配管ダクト）	
種		類		—	浸水防止蓋
主 要 寸 法	た	て		mm	2880*
	横			mm	2880*
	高	さ		mm	266*
	スキンプレート 厚			さ	mm
材		料	—	SM490Y	

注記 *：公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	浸水防止蓋 (揚水井戸 (第2号機海水ポンプ室防潮壁区画内))
種 類		—		浸水防止蓋
主 要 寸 法	た て	mm		1910*
	横	mm		1910*
	高 さ	mm		266*
	スキンプレート 厚 さ	mm		16.0 以上 (16.0*)
材 料		—	SM490Y	

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	浸水防止蓋 (揚水井戸 (第3号機海水ポンプ室防潮壁区画内))
種 類		—		浸水防止蓋
主 要 寸 法	外 径	mm		1744*
	スキンプレート 厚 さ	mm		30.0 以上 (30.0*)
材 料		—		SM490Y

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後	
名		称	—	浸水防止蓋（第3号機補機冷却海水系放水ピット）	
種		類		—	浸水防止蓋
主 要 寸 法	た	て		mm	2150*
	横			mm	11100*
	高	さ		mm	216*
	スキンプレート 厚			さ	mm
材		料	—	SM490Y	

注記 *：公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	浸水防止蓋(第3号機海水熱交換器建屋海水ポンプ設置エリア角落し部)
種 類		—		浸水防止蓋
主 要 寸 法	た て	mm		510*
	横	mm		3135*
	高 さ	mm		96.0*
	スキンプレート厚 さ	mm		16.0以上(16.0*)
材 料		—		SUS304

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	浸水防止蓋(第 3 号機海水熱交換器建屋海水ポンプ設置エリア点検用開口部) (No. 1), (No. 2)
種 類		—		浸水防止蓋
主 要 寸 法	た て	mm		1000*
	横	mm		1000*
	高 さ	mm		164*
	スキンプレート 厚 さ	mm		12.0 以上 (12.0*)
材 料		—	SUS304	

注記 * : 公称値を示す。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 2 号機原子炉補機冷却海水ポンプ(A)(C)室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2), (No. 3)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 2 号機原子炉補機冷却海水 ポンプ(B) (D)室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2), (No. 3)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 2 号機高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名称			—	第2号機タービン補機冷却海水ポンプ室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2), (No. 3)
種類		—		逆止弁付ファンネル
主要寸法	呼び径	—		
	高さ	mm		
材料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名 称			—	第3号機原子炉補機冷却海水ポンプ(A)(C)室逆止弁付ファンネル(No.1), (No.2)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変更前	変更後
名称			—	第3号機原子炉補機冷却海水ポンプ(B)(D)室逆止弁付ファンネル(No.1), (No.2)
種類		—		逆止弁付ファンネル
主要寸法	呼び径	—		
	高さ	mm		
材料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 3 号機高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプ室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 3 号機タービン補機冷却海水ポンプ室逆止弁付ファンネル(No. 1), (No. 2), (No. 3)
種 類		—		逆止弁付ファンネル
主 要 寸 法	呼 び 径	—		
	高 さ	mm		
材 料		—		

注記 * : 公称値を示す。

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	原子炉建屋浸水防止水密扉 (No. 2) *1
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2080*2
	横	mm		1335*2
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
*3 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		原子炉建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	原子炉建屋浸水防止水密扉 (No. 1)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2080* ²
	横	mm		1335* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		原子炉建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	制御建屋浸水防止水密扉 (No. 3)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2076* ²
	横	mm		1816* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
*3 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		制御建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	制御建屋浸水防止水密扉 (No. 1)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2080* ²
	横	mm		1175* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		制御建屋 O. P. 19. 50
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	制御建屋浸水防止水密扉 (No. 2)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		1955* ²
	横	mm		1000* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		制御建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変更前	変更後		
名称			—	計測制御電源室(B) 浸水防止水密扉(No. 3) *1		
種類	—			片開き扉		
主要寸法	た	て		mm	2111*2	
	横			mm	1522*2	
材料	扉	板		—	SS400	
	芯	材		—	SS400	
*3 取付箇所	系 (ラ イ ン 名) 統 名			—	—	
	設	置		床	m	制御建屋 O.P. 8.00
	溢水防護上の 区画番号			—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ					—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後		
名 称			—	制御建屋空調機械(A)室 浸水防止水密扉 ^{*1}		
種	類	—		片開き扉		
主要 寸法	た	て		mm	1990 ^{*2}	
	横			mm	950 ^{*2}	
材 料	扉	板		—	SS400	
	芯	材		—	SS400	
*3 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)			—	—	
	設	置		床	m	制御建屋 O.P. 1.50
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号				—	—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ				—	—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変更前	変更後		
名称			—	制御建屋空調機械(B)室 浸水防止水密扉*1		
種類	—			片開き扉		
主要寸法	た	て		mm	2106*2	
	横			mm	1047*2	
材料	扉	板		—	SS400	
	芯	材		—	SS400	
*3 取付箇所	系 (ライン名) 統 名			—	—	
	設	置		床	m	制御建屋 O.P. 1.50
	溢水防護上の 区画番号			—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ					—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

				変 更 前	変 更 後
名 称				—	第 2 号機 MCR 浸水防止水密扉* ¹
種 類		—			片開き扉
主 要 寸 法	扉 体	た て	mm		2600* ²
		横	mm		2030* ²
	小 扉	た て	mm		2200* ²
		横	mm		1044* ²
材 料	扉 板		—		SS400
	芯 材		—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)		—		—
	設 置 床		m		制御建屋 O. P. 23. 50
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号		—	—	
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ		—	—	

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	制御建屋浸水防止水密扉 (No. 4)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		1840* ²
	横	mm		945* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		制御建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	制御建屋浸水防止水密扉 (No. 5)* ¹
種 類	—			片開き扉
主 要 寸 法	た て	mm		2052* ²
	横	mm		2002* ²
材 料	扉 板	—		SS400
	芯 材	—		SS400
* ³ 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	m		制御建屋 O. P. 15. 00
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用する。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	地下軽油タンク燃料移送ポンプ室アクセス用浸水防止蓋 (No. 1) *1
種 類	—	浸水防止蓋		
主 要 寸 法	た て	mm		1336*2
	横	mm		1070*2
	厚 さ	mm		15.35 以上 (16*2)
材 料		—		SUS304
*3 取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	—		地下軽油タンクピット O.P. 14.80m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合は記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	地下軽油タンク燃料移送ポンプ室アクセス用浸水防止蓋 (No. 2) *1
種 類				浸水防止蓋
主要寸法	た て	mm		1336*2
	横	mm		1070*2
	厚 さ	mm		15.35 以上 (16*2)
材 料				SUS304
*3 取付箇所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—		—
	設 置 床	—		地下軽油タンクピット O.P. 14.80m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—		—
	溢 水 防 護 上 の 配慮が必要な高さ	—		—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合は記載事項。

			変 更 前	変 更 後	
名 称			—	地下軽油タンク機器搬出入用 浸水防止蓋*1	
種	類	—		浸水防止蓋	
主 要 寸 法	た	て mm		1336*2	
	横			mm	1030*2
	厚	さ mm		16.0 以上 (16*2)	
材 料				—	SUS304
*3 取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)			—	—
	設 置 床			—	地下軽油タンクピット O.P. 14.80m
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号			—	—
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ			—	—

注記 *1：内郭浸水防護設備と兼用。

*2：公称値を示す。

*3：内郭浸水防護設備に使用する場合の記載事項。

			変 更 前	変 更 後
名 称			—	第 2 号機海水ポンプ室 浸水防止壁
種 類		—		浸水防止壁
主要 寸法	天 端 高 さ	m		O. P. +14. 4*1, *2
材 料	浸 水 防 止 壁	—		SS400

注記 *1 : 公称値を示す。

*2 : 平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による地殻変動に伴い, 牡鹿半島全体で約1mの地盤沈下が発生していることを考慮した設計とし, 地盤沈下量を考慮した高さを示す。